

(別添3)

【三重県】
校務DX計画

1. 校務におけるICT活用の現状

本県では、校務支援システムを平成28年度に県立高等学校へ、令和6年度に県立特別支援学校へ導入しており、学籍管理・成績管理・保健管理等のデジタル化を推進している。また、令和5年度には校務支援システムと連携する、保護者連絡システムを導入しており、日常的な学校からの連絡を送付できることに加え、ユーザー管理・欠席情報連携・通知表等各種帳票送付などを校務支援システムと連携している。教職員間の情報共有については、Microsoft365(SharePoint、Teams)上で運用するグループウェアで連絡・掲示板・ファイル共有を利用している。

2. 校務DXを推進するための課題と解決策・今後について

一方で、文書管理等で紙ベースの業務が残り、ペーパーレス化が進んでいない場面が見られる。次期校務支援システムの更新時にはクラウド化について検討し、グループウェアの活用とあわせ、現状の紙ベースの業務の見直しを進める。

また、グループウェアやMicrosoft365アプリ、教職員が出張先や在宅で業務を行えるロケーションフリー環境等については、学校間・教職員間で活用の度合いに差があると考えられる。各県立特別支援学校のICT担当者で構成する会議等における情報共有や事例紹介等により活用を拡大し、校務DXを推進する。県立みえ四葉ヶ咲中学校では、県教育委員会情報担当課との情報共有を密に行い、校務DXの推進を図る。

ネットワークについては現段階で支障が生じているわけではないが、今後のクラウド利用が拡大を前提としてネットワークアクセスを実施し、必要に応じてネットワークの改善を図るとともに、学習系・校務系の2つのネットワーク統合についても検討していく。

生成AIについては一部で活用されているが、今後も技術の進展や国・自治体や民間での動向を注視しつつ、情報セキュリティを確保したうえで活用の拡大を図っていく。